

Basic

情シス必見!!

Withコロナに負けない

Azureを活用した

これからのシステム開発

~Azureを選ぶ3 + 1の理由~



はじめに

システム会社はテレワークでどこまで仕事ができるのか？

社会インフラを支えるシステムを中心に構築・開発する独立系ソフトウェア会社(ISV)として創業40年の株式会社ベーシック。多様化するお客様の課題解決と事業展開の要望に応えるため、「Microsoft Azure」登場初期の2011年からクラウドをサービス提供のプラットフォームとして活用している。

我々自身のシステム開発業務にも積極的にクラウド環境の利用を進めていた。しかし、新型コロナの影響に対して、“社員の安全”と“お客様へのサービス提供の継続”について、改めてクラウドを活用した業務の在り方を考えさせられることになった。試行錯誤の末、コロナ禍の緊急事態宣言より前に全社的なリモート業務への移行を実現することができた。

Withコロナ時代では、お客様に提供するサービスだけでなく、リモート環境からの業務プロセス自体へのセキュリティ対策や、そうした状況下においても開発生産性の維持・効率化がシステムの開発現場では高まっている。

① Withコロナと向き合った当社の共働開発

リモートワークでの運用／環境両面をいかにクリアしたか。今一度我々の開発業務の在り方を考える。

② Azureを選ぶ3 + 1の理由

数あるクラウドの中で我々は何故Azureを採用したのか。

③ Azureを活用したデータドリブンビジネス

蓄積したデータをクラウド上で活用していくために、進化していくAzureで何ができるのか。



Withコロナと向き合った 当社の共働開発

**リモートワークを主体とした働き方の中で、
開発業務の運用／環境両面をいかにクリアしていくか。
今一度我々の開発業務の在り方を考える。**

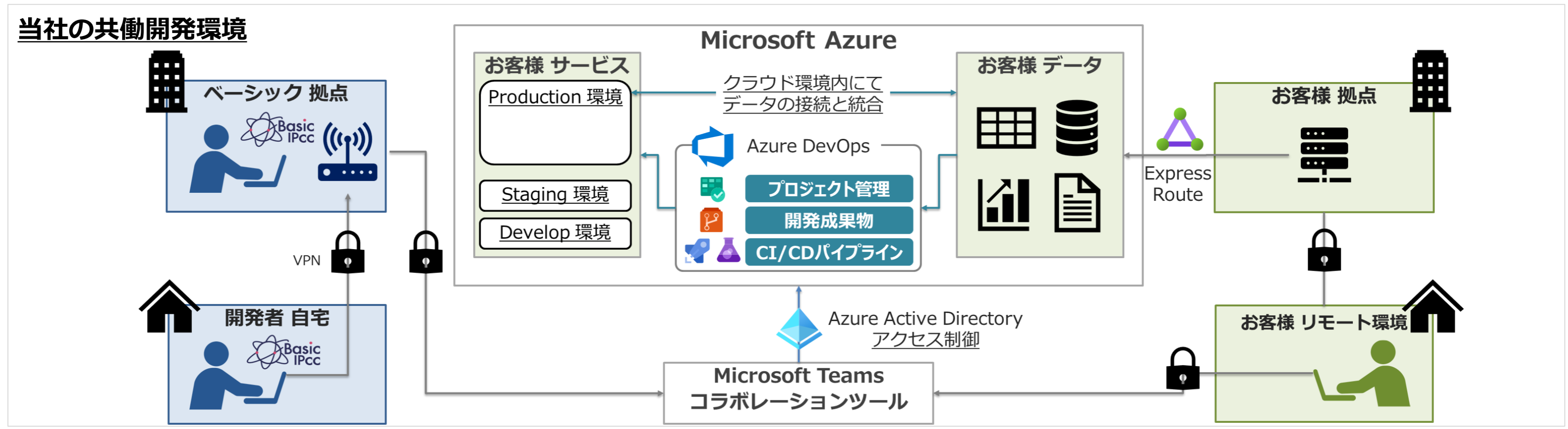
2020年に発生した新型コロナウイルスは、これまでのビジネスの常識を大きく変えてしまった。私たちシステム開発会社の視点からも、業務を見直すことは待ったなしの状態といえる。

Withコロナ時代に業務継続するには、今までの対面型コミュニケーションを中心としたビジネス推進だけでは、当社だけでもお客様だけでも対応できず、プロジェクトの停滞を余儀なくされてしまう。

これまで対面が当たり前だった営業活動・折衝業務・プロジェクト中のコミュニケーションについて、テクノロジーを活用しながら、コロナ禍前より効率的に、効果的に行っていくことが重要であろう。

リモートワークを主体とした働き方のなかで関係者が円滑に開発業務を進めていくために、私たちベータシックは一体感を持ってお客様と同じゴールを目指すことが可能な
“共に働く” 開発プロセスと環境が必要と考える。

1 Withコロナと向き合った当社の共働開発



ベーシックが実施した 2つのリモートワーク対策

当社ではお客様のご理解のもと、「**Azure**」サービスを活用することで、非対面型のコミュニケーションでも密な連携を可能とし、お客様と我々が共に安全にアクセス可能なクラウド環境で情報共有する**お客様との共働開発**を実現している。

またリモートワークにおける開発業務の環境面においては、自社エンドポイントセキュリティ製品「**Basic IPCC**」を活用することで、社内の通信ポリシー制御を行い、**自社内での開発と同等のセキュリティ対策**を実施した。

a リモート業務におけるAzureサービスの活用

+

b 自社エンドポイントセキュリティ製品の活用

↓

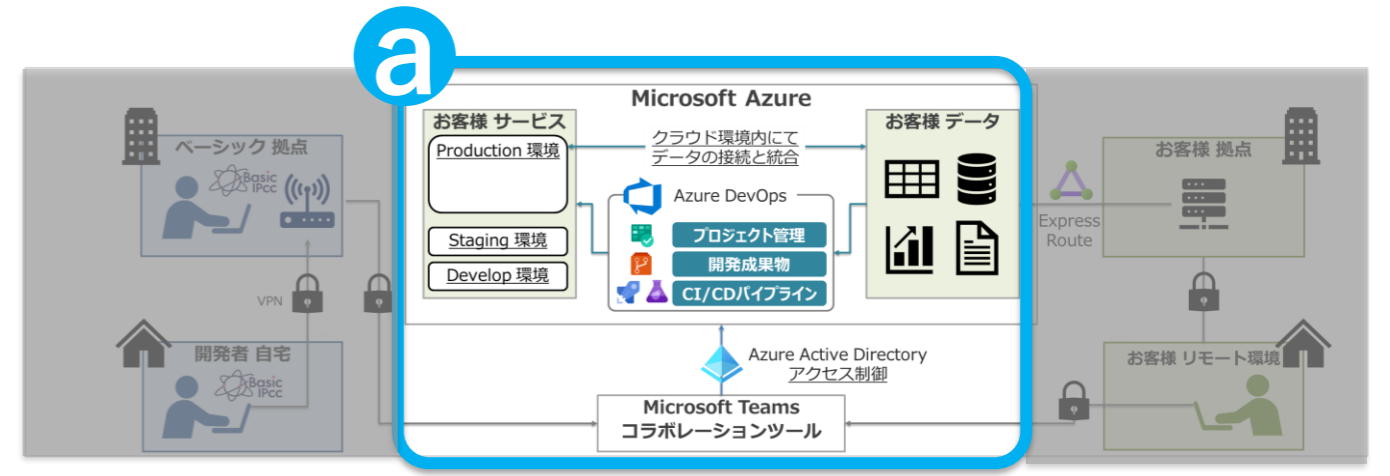
よりセキュアな環境下で
お客様との**“共働開発”**を実現

1 Withコロナと向き合った当社の共働開発

ベーシックが実施した2つのリモートワーク対策

a リモート業務における Azureサービスの活用

お客様との共働開発の実現に向けて、当社がAzureサービスをどのように活用したのかをご紹介します。



非対面型コミュニケーションによる 密な連携の実現



Microsoft Teams

Teams上から、お客様のプレゼンス情報を確認しながら、必要に応じてチャット機能やWeb会議機能などそのタイミングに適したツールでコミュニケーションを図ることで効率的なコラボレーションを実現。



Azure DevOps (Boards, Repos)

「DevOps」上にお客様との共同プロジェクトを準備し、お互いのタスクとその成果物を「Azure Boards」機能を用いて管理することで日々の進捗状況をリアルタイムで共有。

一元的にアクセス制御されたクラウド環境下での情報共有



Azure DevOps (Repos, Pipelines, Test Plans)

Azureに一元的に開発リソースをリポジトリ管理することで、インターネットに接続できればどこからでも開発成果物の管理可能。また継続的なシステム開発を見据えたCI/CD運用にも対応。



Azure Active Directory

本番環境へのセキュリティ対策も、Azure上の認証機能や、自社認証基盤との連携、多要素認証機能を活用することで最適な認証/認可でのセキュリティ保護を実現。



Azure Monitor

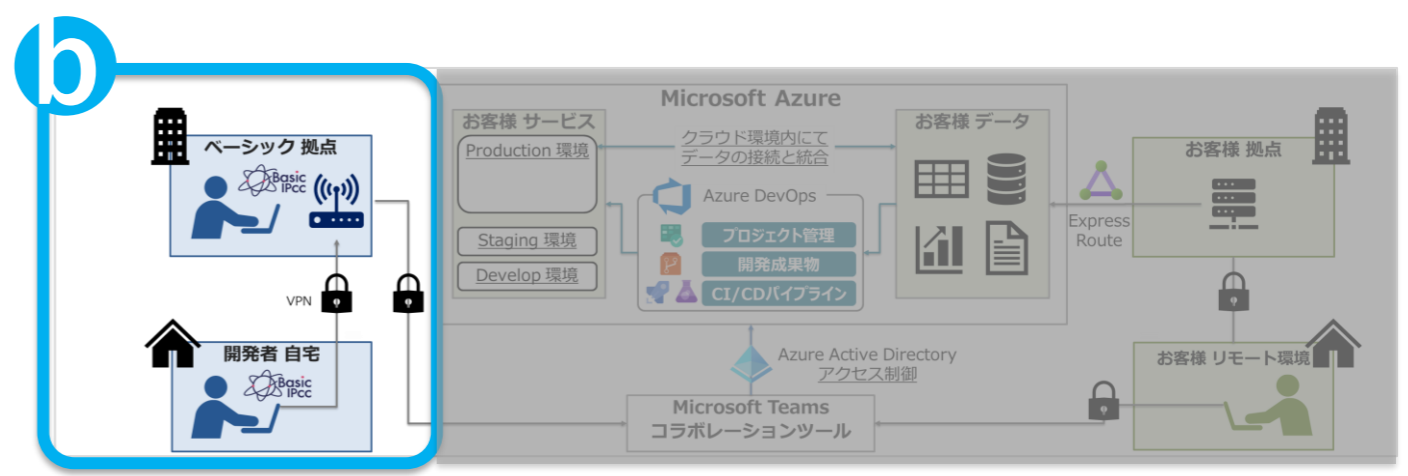
システム運用に必要な秘匿情報も、上記のセキュリティで保護されたAzure上で管理することで、各リソースに対する“いつ”“誰が”“何を”というへのアクセス情報を監視。

1 Withコロナと向き合った当社の共働開発

ベーシックが実施した2つのリモートワーク対策

b 自社エンドポイントセキュリティ製品の活用

コロナ禍のリモートワーク対応として、全社員に配布した作業用PCにBasic IPCCを導入。自宅からでも自社環境と同等のセキュリティ対策がされた環境下でシステム開発を実現した。

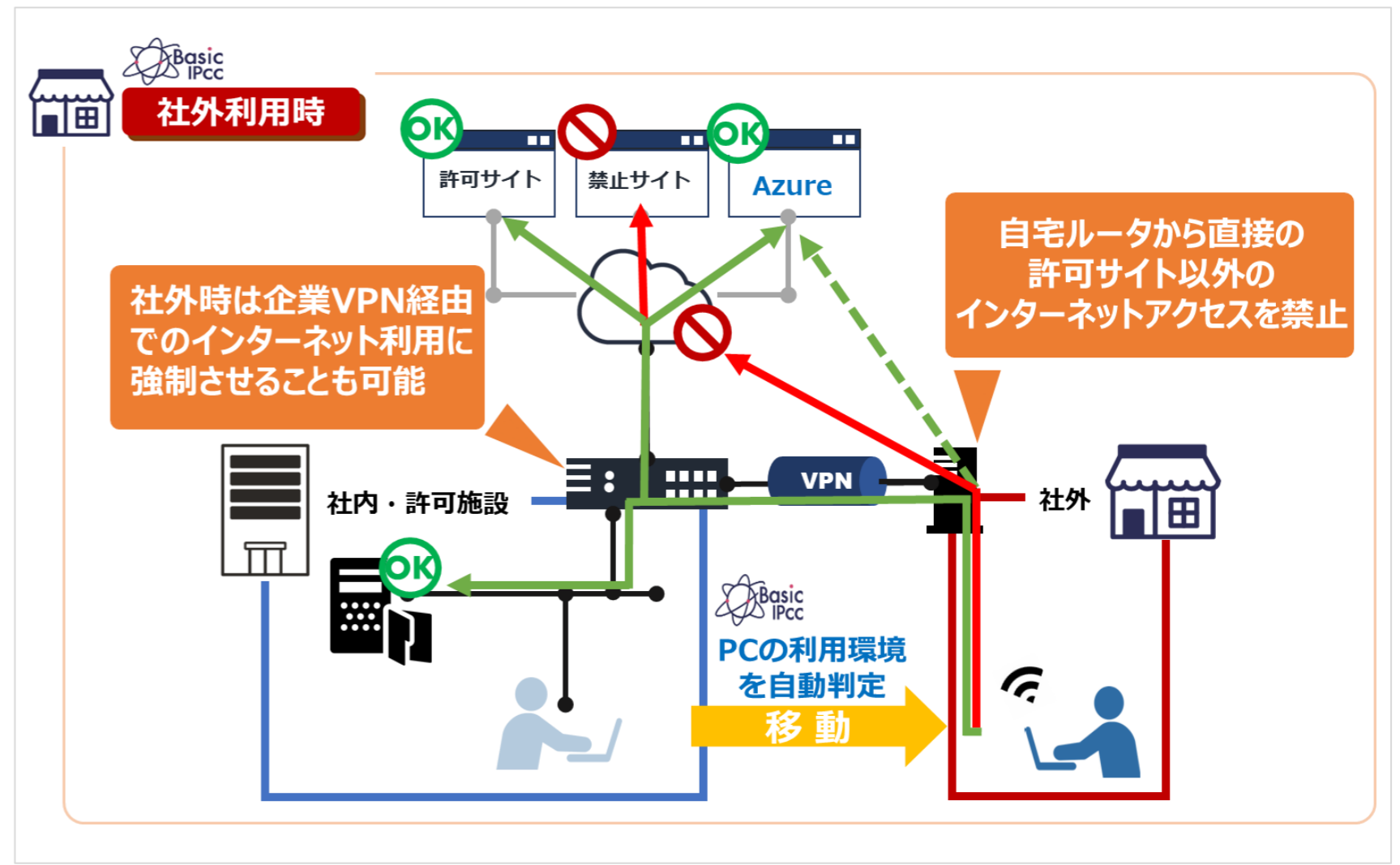


「Basic IPCC」は、社内LANアドレス帯やSSID等により社内 or 社外のロケーションを自動判定し、ロケーションごとに接続先を制限することが可能なインターネット無断接続防止ツールである。

今回の状況では、社内にいる場合は全ての通信を許可し、社外(テレワーク環境)では、接続先を社内のVPNゲートウェイにのみ許可することで、テレワーク環境時にも当社のセキュリティポリシーを適用したNW環境(社内LAN経由)でのインターネット接続のみに制限することで、セキュアなネットワーク環境下での開発を実現できた。

またAzure環境と組み合わせることで、VPNゲートウェイのグローバルIPをAzure環境側に登録することにより、作業用PC~社内NW環境~Azure環境とよりセキュアな開発環境を実現できる。

IPCCの管理サーバには全社員の通信状況を一元的に集約しているため、当社では最終通信日時等の通信ログからリモート業務の課題である社員の作業時間把握などにも活用した実績があり、勤怠管理などにも活用できる。





Azureを選ぶ3 + 1の理由

数あるパブリッククラウドの中で、私たちは何故Azureを採用したのか。
ユーザー視点で考える3つの理由と、システム開発の視点で考える+1の理由を紹介。

Azureを選ぶ理由



クラウドの採用を検討する
情シス

3つのユーザー視点

- ・セキュリティ性
- ・ビジネス継続性
- ・費用対効果



顧客ニーズ探求と
最新技術を追求
するプロ集団

システム開発の視点

要求仕様への柔軟性

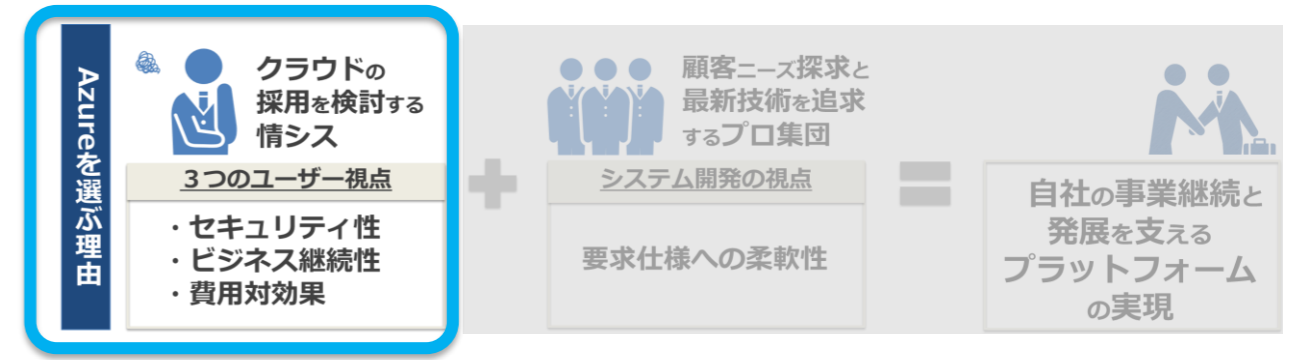


自社の事業継続と
発展を支える
プラットフォーム
の実現

2 Azureを選ぶ3 + 1の理由

3つのユーザー視点

自社の事業継続と発展を支えるために



安全性

高度なセキュリティ保護とコンプライアンスに準拠

Microsoft がグローバルで運営するクラウドプラットフォーム

日々進化し続ける脅威に対するセキュリティインテリジェンス サービスが組み込まれた保護機能

厳格な規制を定める業界や市場の各種コンプライアンス基準に準拠

参考 : [Azure コンプライアンス ドキュメント](#)

ビジネス継続性

ビジネスアプリとの高い親和性が生産性向上を支える

企業で導入されているMicrosoft 製品によるデータ活用が容易

幅広いプログラミング言語やフレームワークをサポート

アプリケーションエンジニアだけでなく、ユーザ主導の開発が可能なローコード/ノーコード開発プラットフォームとの連携

費用対効果

高付加価値を生むPaaSサービスが豊富

Azure Active Directory
クラウドサービスと統合された認証基盤

- ・ 他サービス/オンプレミスのデータ連携
- ・ コンシューマー向けユーザ認証
- ・ 多要素認証 など

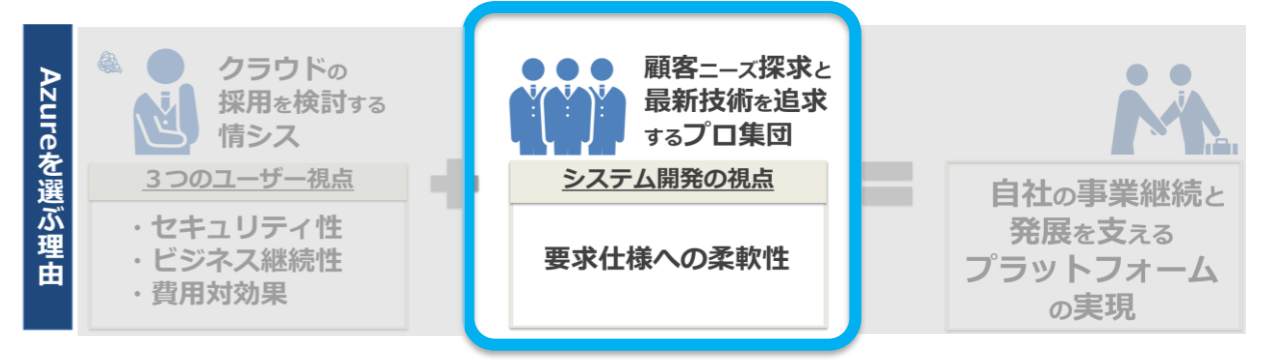
Cosmos DB
データ量に影響されることなく、アクセス性能が保証されたNoSQL DB

Front Door
セキュリティとコンテンツ配信機能が統合されたグローバルエンドポイント

2 Azureを選ぶ3 + 1の理由

システム開発の視点

様々な要求に柔軟に対応するために



要求仕様への柔軟性

Microsoft Azureの特性

多様かつ変化し続けるビジネス要求に対応可能なプラットフォーム

グローバルな事例をもとに洗練されたリファレンスアーキテクチャが**ビジネスドメイン**単位で**アップデート**

成長を続ける多種多様なPaaSサービスから**ビジネス要求**と**ROI**に応じた最適な機能が選択可能

実運用を想定した検証環境を**スピーディ**に構築可能



これらAzureの特性を活かした当社のアーキテクチャ構築支援時のアプローチを紹介

1 リファレンスアーキテクチャの選定

- お客様のビジネス要求からアーキテクチャを選定
- A) ビジネスモデルとゴールの定義
 - B) データのアセスメント
 - C) ビジネス要求に適合したアーキテクチャを選定

2 アーキテクチャの設計

- 選定したアーキテクチャをベースに最適な実現手段を検討
- A) 要求仕様の詳細化
 - B) 機能要件/非機能要件/セキュリティ要件の定義
 - C) セキュリティを考慮したアーキテクチャの設計

3 PaaSサービスを活用した実現性検証

- 設計したアーキテクチャをもとに実現性を検証
- A) 検証内容の設計
 - B) PaaSを活用した検証環境構築
 - C) 検証実施・評価&設計へのフィードバック



Azureを活用した データドリブンビジネス

蓄積したデータを活用するために…
進化していくAzureで何ができるのか。

クラウド導入/デジタル活用を進めていくにあたり、いかに自身が持つ情報資産を活用して、有益な価値へ転換するかがお客様のビジネス成長のカギになってきている。

その要求に合わせ、「Azure」もData Platformにおける機能強化がなされており、それぞれのビジネス分野においてプラットフォームを活用した新たなソリューションが日々創造されている。

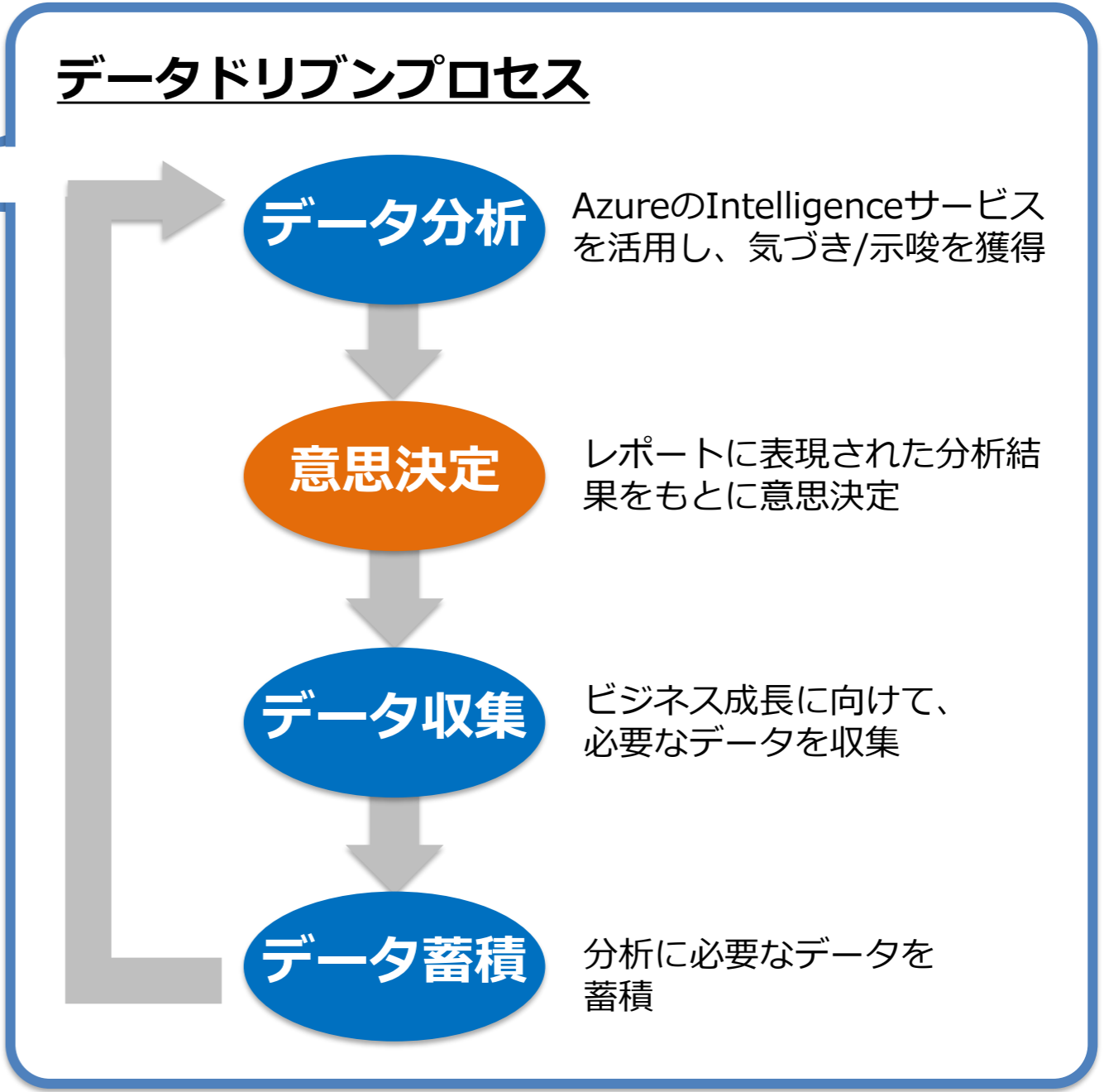
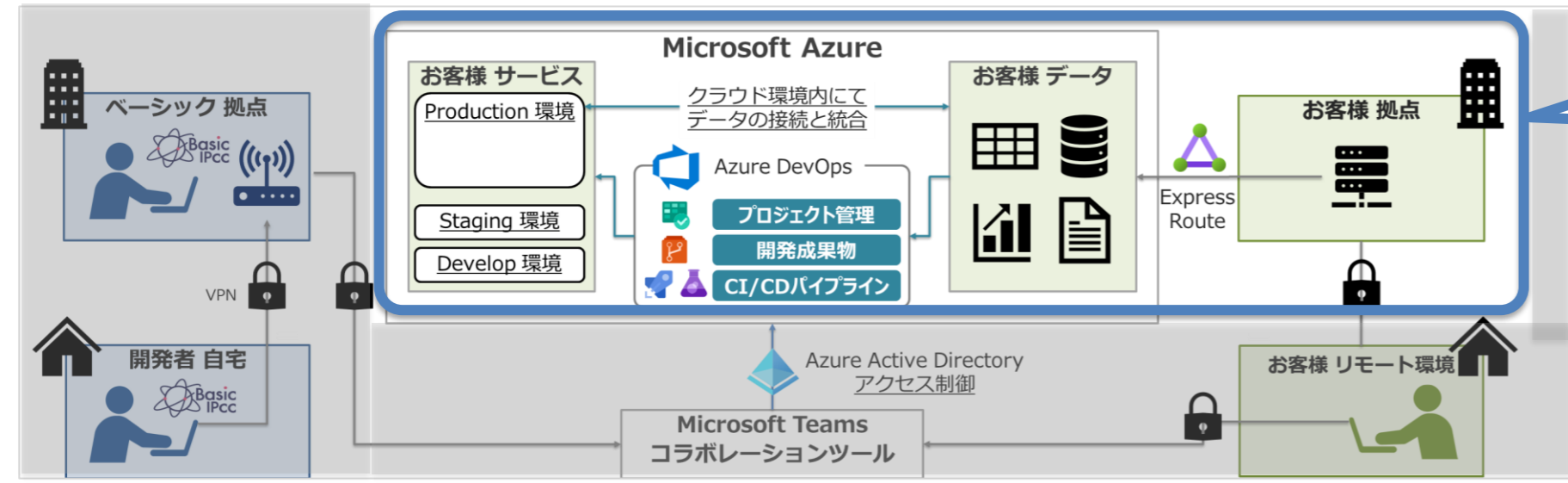
当社においても、「Azure」サービスの成長戦略を注視しながらお客様ビジネスへの適用に向けたデータ活用支援サービスを準備している。

ここでは今後のデータドリブンビジネスの在り方と我々が考えるソリューションについて記していく。

3 Azureを活用した今後の展開

Azureを使った データドリブンを今一度問い直してみる。

お客様自身でデータドリブンプロセスをスピーディに継続して運用するために
Azureは最適な基盤になるか？



データドリブンプロセス(DataOps)を 自社推進していくために

- ・ 大容量かつ非構造的なデータを収集・蓄積するデータ基盤
- ・ データの加工・分析に特化したIntelligenceなツール
- ・ ビジネスアプリケーションから利用可能なインターフェース

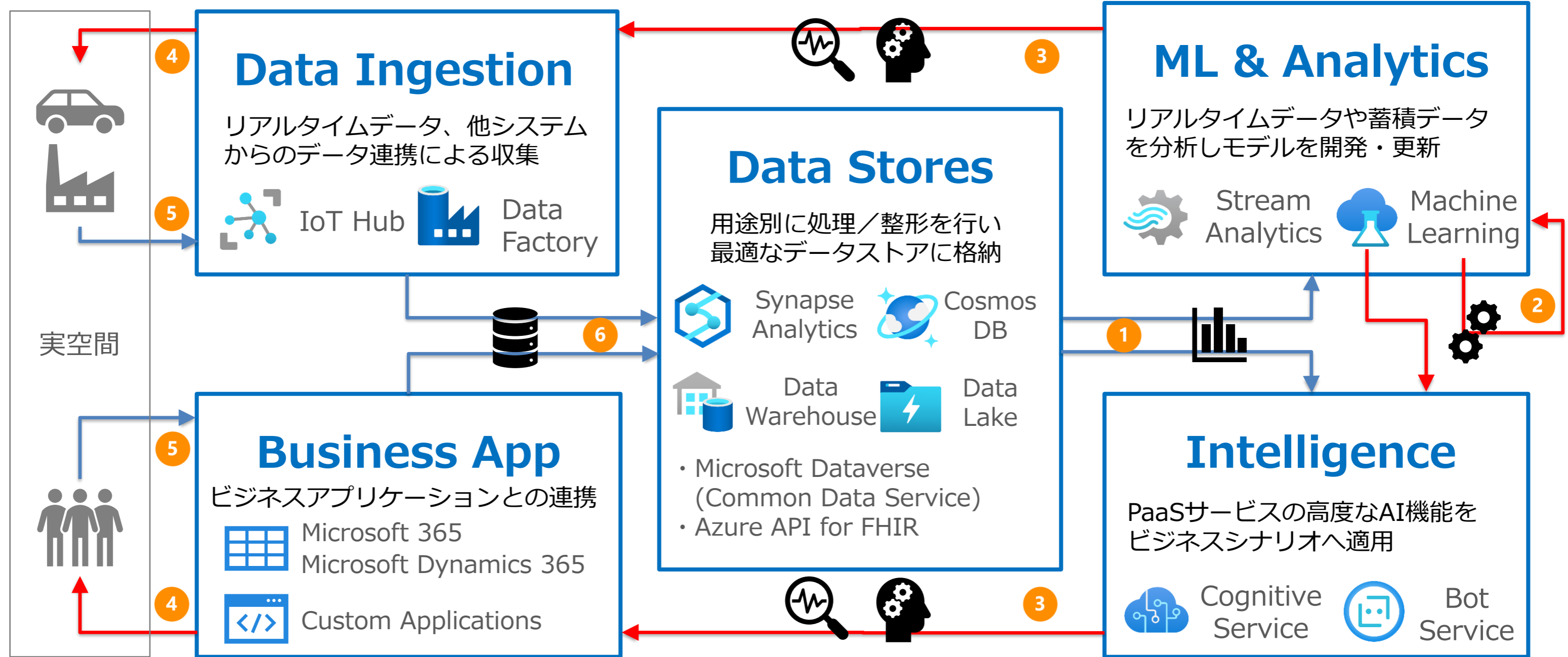
これらを兼ね備えたMicrosoft Azureの活用が最適と考える。

3 Azureを活用した今後の展開

Azureを活用したDataOps支援サービス

モダナイゼーションによってデータの接続と統合を実現した環境を活用し、増加し続けるデータの管理・運用、それらを活用したデータモデルの開発・更新の基盤構築とプロセスを支援します。

Modernization + DataOps for Azure



3 Azureを活用した今後の展開

[広告] Microsoft Azureで業務改革を加速！ 当社サービスのご紹介

PaaSを積極的に活用 顧客のDX実現を強力にバックアップ

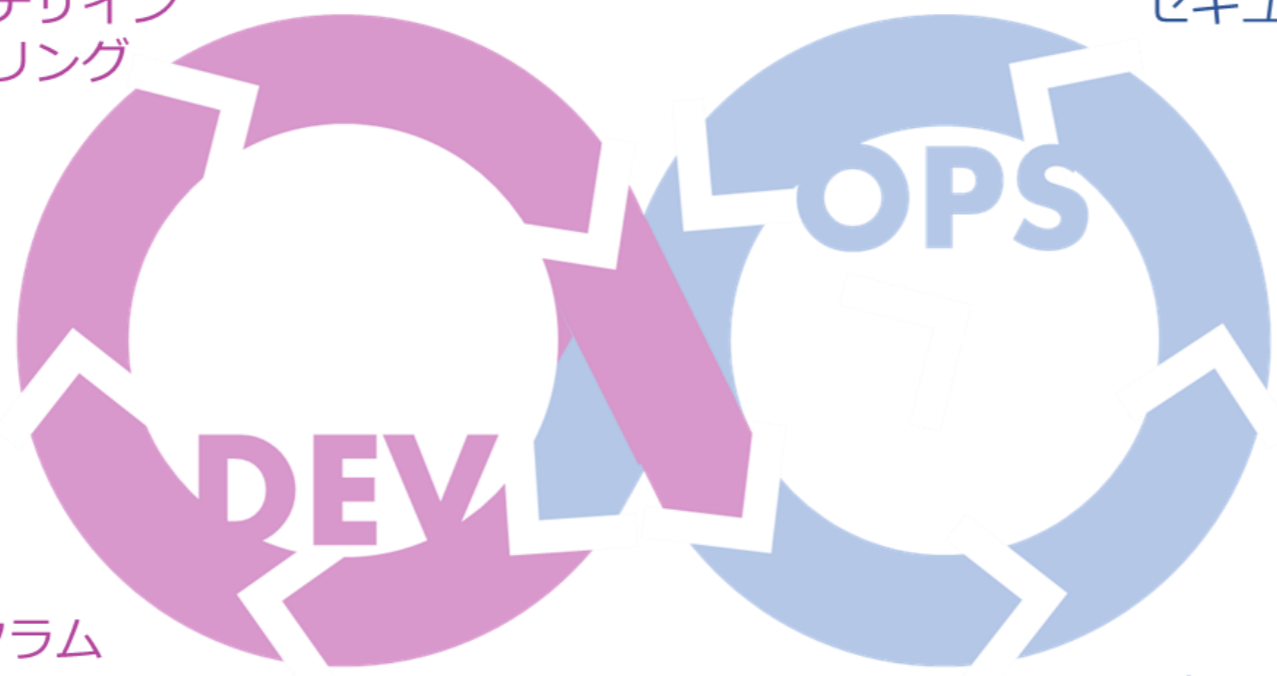


モダナイゼーションサービス



アーキテクチャデザイン
運用エンジニアリング

セキュリティデザイン
クラウド戦略



アジャイル/スクラム
Modern Apps Framework

Azure CSP
クラウド コンサルティング

DEV	OPS
アジャイル型開発支援	運用エンジニアリング支援
ラボ型開発支援	Azure アドバイザリー
SEC	Azure セキュリティデザイン
Azure CSP (Cloud Service Provider)	
	CSP



Gold Cloud Platform
Gold Application Development
Gold DevOps

当社はMicrosoft Azureを用いたシステム設計・構築の
エキスパートであることを示すパートナープログラム
「Cloud Platform Gold コンピテンシー」
「Advanced Specialization」の認定を受けています。

Azureを使ってシステム開発 と運用の実現に向けた支援を

社会インフラを支えるシステムを中心に構築・開発する事業者として、ベシックは40年の実績を持ちます。Microsoft Azureの最新情報・技術をいち早く取り入れ、PaaS (Platform as a Service) ベースのクラウドネイティブなシステム構築を支援します。

モダナイゼーションサービスは、これまでの経験を生かしてMicrosoft Azureの導入、活用を包括的に支援するサービスです。

「オンプレミス」と「クラウド」の両方に精通している当社は、これまでも一点ものの業務システム開発やクラウドへのリフト&シフト、スピード重視のサービス開発といった多様なニーズに的確にこたえてきました。本サービスでもユーザー企業を対象として、DevOpsライフサイクル全体にセキュリティを組み込んで、お客様との継続したアプリケーション**“共働開発”**をサポートします。

詳しくはこちらより
お問合せください。

株式会社ベーシック
www.basic.co.jp



この記事のお問合せ先



Basic Inc.
www.basic.co.jp

株式会社ベーシック

TEL : 03-3204-2241
E-mail : contact-us@basic.co.jp

© 2020 Basic, Inc. All rights reserved.
記載事項は、予告なく変更される場合があります。内容の一部または全部を株式会社ベーシックの許可なく使用・複製することはできません。
Microsoft、.NET、Windows、Windows Server、Microsoft Azure、SQL Azureは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
その他、記載のブランド・製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。